

年頭のご挨拶

駐フィリピン日本国大使

越川 和彦



新年あけましておめでとうございます。

マニラ日本人会の皆様におかれましては、コロナ禍の厳しい時期ではありますが、新年をそれぞれの形でお迎えのことと拝察申し上げます。

私は、昨年 11 月に着任しましたが、家内と共にマニラでの初めての静かな新年を迎えました。

フィリピンは、私にとり初めての勤務地ですが、これまで接してきた多くのフィリピンの方々を通じて、フィリピンの人々は、家族の絆を非常に大切にし、人情に厚く、外国人に対しても親しみやすい国民性を持っておられると感じておりました。この思いは、実際、フィリピンに住んでみて益々強まっております。

今日の日本とフィピンの関係は、ドゥテルテ大統領が「兄弟よりも近い友人」と表現されるほど緊密かつ友好的なものになっております。しかし両国間の歴史には戦争という大変厳しい時期もありました。フィリピンは、戦争で深い傷を受けたにもかかわらず日本を許し、日本は、官民挙げて長い年月をかけてその深い傷を癒し、かつ友好関係を育む努力をしまりました。

アジアの国々の中でも、フィリピンの対日好感度は群を抜いて高いものになっております。最近では、日本のポップカルチャーが人気を博し、フィリピン観光客の日本訪問件数も増加の一途を辿っております。マニラ日本人会が毎年開催されている盆踊り大会や文化祭なども盛況を博し、両国の人々の絆を深めることに大きく貢献されております。

本年は東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。昨今、日本国内では両国にゆかりをもつアスリートの活躍がめざましく、フィリピンに対する関心が高まり、両国の架け橋として注目を集めております。新型コロナ禍の厳しい状況ではありますが、このスポーツの祭典が成功裏に開催され、スポーツを通じて両国の友情が一層深まることを祈念しております。

最後になりますが、1月1日にセブ領事事務所がセブ総領事館になりました。皆様へのより良い領事サービスに努めてまいります。本年は、国交正常化65周年にあたる年であり、また、戦略的パートナーシップという特別な関係を両国で合意してから10周年となります。皆様とともに、両国関係が益々発展するよう取り組んでまいりたいと存じます。

本年は丑年です。新型コロナ禍の最中ではありますが、牛のように多少のことでは動じず、一步一步、確実に進んで行けることを願っております。

皆様のご健康とご発展をお祈りして新年のご挨拶とさせていただきます。

(了)